SOMPO JAPAN FOUNDATION NEWS　2002－3

平成１４年１０月

損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒102-0073 東京都千代田区九段北４－２－１

TEL03-3222-3622 FAX03-3222-3634 http://www.sompo-japan.co.jp/foundation/ Eﾒｰﾙ:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

自動車購入費助成の応募要領決まる

平成１４年度社会福祉助成として、福祉系の市民活動団体に対する「ＮＰＯ法人設立資金助成(３，０００万円)」を実施したのに続き、１０月１５日より「自動車購入費助成」(１，０００万円)の公募を開始します。本年度は東日本地区を対象に、その応募要領が下記の通り決定いたしました。この内容は、当財団のホームページや各地区の社会福祉協議会、マスコミを通して案内されておりますが、皆様からの情報提供もよろしくお願いします。

＜ 応 募 要 領 ＞



１．助成対象者　（１）福祉活動を行う団体のうち、主として障害者の在宅福祉活動を行う団体　ただし、加齢に伴う障害者（高齢者）団体を除く。

（２）東日本地区（北海道・東北・関東・甲信越・静岡県）に所在する団体

（３）特定非営利活動法人、社会福祉法人（小規模通所授産施設に限定）の法人格取得を目指している団体、あるいは既に取得している団体

２．助成金額　１団体１００万円まで（総額１,０００万円）

３．選考基準　（１）原則として購入予定自動車の車両購入価額は、助成金額の２倍（２００万円）以下であることとします。なお、車両購入価額とは諸費用を含まない本体価額とします。

（助成の際に、改めて車種・購入先をご相談させていただきます。）

（２）将来展望を持ち先駆的な活動を行っている団体、既に活動実績のある団体を優先します。

４．申込方法　（１）所定の申込書に内容記載のうえ、当財団事務局に郵送してください。

（２）募集期間　平成１４年１０月５日（火）～平成１４年１１月５日（火）まで　（当日の消印有効）

５．選考方法と助成時期

１１月開催予定の選考委員会で選考し、１２月下旬助成予定

「NPO法人設立資金」の助成先決まる

本年度で４回目を迎える「ＮＰＯ法人設立資金助成（社会福祉助成）」は、９月９日開催の選考委員会で慎重な審査を経て、４２都道府県１００団体への助成が決定しました。（本年度の応募は４４都道府県２８５団体から受付）

助成金額は１件あたり３０万円、総額３，０００万円で、本助成開始以来４年間の累計は、４００団体へ１．２億円となっています。その多くの団体が法人格を取得し、各地で地域福祉の向上に熱心な取組を展開しています。

贈呈式は、東京近郊の１都３県の助成先を対象に１０月２９日本社にて（当財団主催、損保ジャパン本社ビルに於いて）、それ以外の地区は助成先の最寄りの支店主催で開催されます（9/24 付全社通達参照）。

＊＊＊本年度の応募状況から＊＊＊

１．ＮＰＯ法人化の動きは全国へ広がる

本年度の申込件数ベスト５は、東京都３８件、神奈川県２８件、大阪府２７件、兵庫県２７件、埼玉県１２件と大都市に集中し、この５県だけで全体の半数近くを占めますが、申込は年々各地に広がりを見せ、本年度は４４都道府県の団体から申込を受け付けています。福祉系の市民活動団体は、法人化することで地域の社会的信用を得、介護保険の事業者認定を受けたり、行政からの委託事業を受託する事が出来るようになり、その活動範囲を広げつつ地域に密着した福祉サービスの担い手として着実に成長しつつあります。

今や地域福祉サービスはこれらの団体無しにはその充実は難しく、任意団体から法人化への動きはますます増えていくものと思われます。（全国のＮＰＯ法人数：約７，７００）

２．福祉系ＮＰＯ法人の事業内容はバリエーションが豊富に

高齢者や障害者の在宅福祉活動を行う団体からの申込みが中心となりますが、市民団体による福祉活動の範囲は広域にわたってきています。例えば、音楽・絵画・陶芸・演劇・人形劇・腹話術・料理等の文化活動団体、障害者スポーツ(ダイビング・セーリング他)の団体、アニマルセラピー（乗馬・犬等を介しての活動）の団体、ファッションやメイクアップの団体、インターネット放送局や写真等による情報発信の団体、福祉のまちづくり（例えば温泉街を福祉の町に、農園を中心とした福祉の地域づくり）の団体、ホームレスや薬物依存者を支援する団体、不登校児やＬＤ児を支援する団体、権利擁護団体などからの申請を受け付けています。これらの団体の中には、障害者や高齢者ばかりでなく一般市民も一緒になって、誰もが住みよい町・地域づくり(ノーマライゼーション)を目指した取組も広がってきています。このような取組は行政まかせではなかなか実現しにくいものもあり、自由な活動が出来るＮＰＯならではの取組です。少子高齢化が進む等福祉全般にわたる一層の充実が急務の我が国の現状を考えると、きめの細かい市民活動団体の活性化がますます重要となってきています。

３．平成１５年４月には障害者の「支援費制度」がスタート

平成１２年にスタートした「介護保険制度」の実施に続き、平成１５年度より障害者の「支援費制度」（注）が実施されます。この制度では、障害者が受けたいサービスを自らの

選択で選ぶことが出来る受益者本意の制度となります。障害者支援団体は「支援費制度」の指定居宅サービス事業者となってサービスを提供し、その対価を公費である支援費として受領、より良いサービスの提供と安定した団体運営を行うために法人化を目指したいという応募も増えてきています。

＊＊(注) 障害者「支援費制度」とは＊＊

従来、障害者が福祉サービスを受けようとした場合、行政がサービスの内容やサービス提供事業者を決定していました（「措置」制度）が、利用者(障害者)自身が受けたいサービスや事業者を選択でき、選択した事業者と直接「契約」をしてサービスを受ける制度が「支援費制度」です。

4．法人化の目的は社会的信用を得るため

任意団体がＮＰＯ法人化を目指す第一の理由は、地域での社会的信用を得て地域で認知されることにあります。また、経営基盤を強化する、行政からの仕事が受託できる、寄付金・助成金が受けやすくなる等が主たる目的となっていますが、一般的には市民活動団体の収支は厳しいのが実状で、法人化後、地域から信頼され、協力を受けられるような活動を行うことがきわめて重要となってきます。社会人の一人として、より住み易い地域づくりに貢献しているこれらの市民活動団体に関心を持ち、育てていくことが大切になってきます。

● 平成１４年度　社会福祉助成「ＮＰＯ法人設立資金」助成先１００団体一覧 ●

決定ID	都道府県	団体名	代表者名	決定ID	都道府県	団体名	代表者名	決定ID	都道府県	団体名	代表者名	決定ID	都道府県	団体名	代表者名
02001	北海道	エルム運営委員会	村山 東平	02026	東京都	自立援助センター ログハウス	星川 智佳子	02050	長野県	ケアタウン逸間温泉	水澤 勇一	02076	兵庫県	ヴィ・リール（生活支援センター）	鎌ヶ崎 恵子
02002	北海道	ホップ障害者地域生活支援センター	竹田 保	02027	東京都	重度知的障害者の地域生活を支援する会「やどかり」	木村 憲介	02051	長野県	やまびこ舎	吉田 龍	02077	兵庫県	非営利活動団体波路ふファミリーサポートセンターまあるく	堂前 千津子
02003	北海道	地域生活支援センター かしわのもり	松山 雅一	02028	東京都	無痛無汗症の会「トゥモロウ」	小田 幸子	02052	岐阜県	宅老所"楽らく"	武田 美津子	02078	兵庫県	地域生活支援センター れん	鈴木 美幸
02004	北海道	北海道総合福祉研究センターおたる事業部	平 祥子	02029	東京都	障害児のための「かつしか風の子クラブ」	小川 悦子	02053	岐阜県	障害者自立センター つっかいぼう	戸田 二郎	02079	兵庫県	地域共生スペース ぶりば	大江 尚子
02005	青森県	特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会	太田 真	02030	東京都	こまえ精神障害者家族会	武田 弘三	02054	静岡県	職和会設立準備委員会	清瀧 雪香	02080	奈良県	トトロ学園	小川 隆司
02006	岩手県	特定非営利活動法人 ふくとびあ水沢	及川 清隆	02031	東京都	どりいみんぐ	中島 佳子	02055	静岡県	けるん	福井 英子	02081	鳥取県	誠道ふるさと塾	長谷 正信
02007	岩手県	宮古地区いきいきワーキングセンター	及川 新	02032	東京都	ピアネット北	井上 良子	02056	静岡県	ゆうゆうの家	竹内 やゑ子	02082	島根県	久米の家	松浦 幸子
02008	宮城県	つるがや地域生活支援センター設立準備会	水戸 烈	02033	東京都	マドレーヌ21	佐藤 信男	02057	愛知県	地域分かち合い ゆめじろう	出口 晋	02083	岡山県	節いの里	山本 房子
02009	宮城県	NPOみやぎ「こうでねいと」	齋藤 宏喜	02034	東京都	観杏の会	米田 泉介	02059	滋賀県	障害者の自立生活を支援する会	清水 義昭	02084	広島県	サポートセンターあしたば	市川 佳子
02010	秋田県	アイアンドユウ	保坂 敦子	02035	東京都	ハートテクノロジーコミュニティー運営委員会	花田 照久	02060	京都府	ジョイント・ぽっと	吉本 武市	02085	山口県	バリアフリーの会	石本 弘子
02011	山形県	あずまうこぎの会	情野 順治	02058	東京都	障害者（児）と共に歩む会 なんでも工房	木村 淳子	02061	京都府	福祉送迎サービス たんぽぽ	河野 通利	02086	徳島県	びゅあねっと	笹木 裕人
02012	福島県	こころネットワーク県南	齋藤 雄一	02036	神奈川県	障害者雇用システム研究会 雇用部会	北原 清信	02062	京都府	ふれあい共同作業所	橘谷 民子	02087	香川県	Caクリエーション	松岡 克尚
02013	茨城県	スペース空	三浦 剛	02037	神奈川県	脳外傷友の会 ナナ	大塚 由美子	02063	大阪府	なにわ家族会	芝池 照代	02088	愛媛県	フラット	角森 美保
02014	茨城県	児童クラブ ポランのひろば	小園江 晴美	02038	神奈川県	汐見台福祉コミュニティ	鈴形 昭徳	02064	大阪府	自立生活センター・あるる	安原 典佐子	02089	高知県	高知県に富山方式のデイサービスを作る会	高橋 潔
02015	栃木県	障害者の社会参加を推進する会「なずなの会」	渡辺 美恵子	02039	神奈川県	都筑ハーベストの会	佐々木 秀夫	02065	大阪府	リウマチ・難病福祉作業所 ワークショップ'99	栗 栄子	02090	福岡県	シニアライフ・サポートセンター福岡	綾部 明人
02016	群馬県	東毛地域 生活支援センター「セサミ」	新井 慶之	02040	神奈川県	たすけあい はなもも	小林 正子	02066	大阪府	ゆいまーる	山村 寿子	02091	福岡県	むなかた介護サービス研究会	大林 京子
02017	埼玉県	自立生活センター遊TOピア	飯田 力	02041	神奈川県	「わの会」	石井 幸子	02067	大阪府	ルツ福祉作業所	川田 美智子	02092	佐賀県	ふれあいネット サガンズ	大田 卓生
02018	埼玉県	ケアサポート すずらん	船橋 正	02042	神奈川県	生活支援の会 ステップ	小久保 恭子	02068	大阪府	コミュニティ・ケア・ネットいずみ	森田 靖久	02093	熊本県	障害者共同作業所 トライハウス	北岡 司
02019	埼玉県	自立援助ホームとことこの家	後藤 美智子	02043	神奈川県	NPOかむ	小倉 常明	02069	大阪府	ほわほわの会	宮崎 充弘	02094	熊本県	道企園 あおぞら作業所	松本 正隆
02020	埼玉県	ウェルフェア・コレクティブ・ケアぴーぷる	末森 克彦	02044	神奈川県	あつぎ精神障害者地域生活支援センター法人設立準備会	山岡 功平	02070	大阪府	障害者の自立を支えるサポートネットワーク	石倉 優子	02095	宮崎県	ひなたぼっこの会	時任 博之
02021	千葉県	鶴と健康の支援センター	山岸 東太郎	02045	新潟県	自立生活支援センター新潟	篠田 隆	02071	兵庫県	自立生活センター リングリング	中尾 悦子	02096	宮崎県	自立する高齢社会を考える会	篠原 一郎
02022	千葉県	自閉症サポートセンター	松井 宏昭	02046	富山県	「食と福祉と環境」を考えるネットワーク	牛島 政信	02072	兵庫県	マザーサポートの会	藤井 啓子	02097	鹿児島県	特定非営利活動法人 自立支援センターかごしま	藤田 恭洋
02023	千葉県	在宅ヘルパーサービス朋	大野 寛子	02047	石川県	サポートステーションWaku Waku	錦田 ゆかり	02073	兵庫県	阪神移動サービスネットワーク	姫野 操子	02098	鹿児島県	自立生活センター鹿児島	吐合 美由紀
02024	東京都	福祉ショップ わくわく	東谷 幸政	02048	福井県	さわやかさぽえボランティア虹	天谷 まり子	02074	兵庫県	すまいる・フレンズ	中野 信夫	02099	鹿児島県	精神障害者共同作業所「明りの家」	恵川 龍一郎
02025	東京都	なかよし会設立準備委員会	田柄 みさ子	02049	長野県	岡谷市身体障害者協会	堀内 一光	02075	兵庫県	おりーむ21	岡田 昌三	02100	沖縄県	福祉ネットワークおきなわ	平 喜美子

シンポジウムのご案内

日　　時：平成１４年１０月１８日（金曜日）１３時～１７時
場　　所：全日通霞ヶ関ビル　８階会議室
プログラム：
第１部　基調講演　「今なぜＮＰＯと助成財団の協働が必要なのか」
講演者　雨宮 孝子氏　（松蔭女子大学教授）
第２部　シンポジウム
「ＮＰＯと助成財団の協働で社会がどう変わろうとしているのか」
第３部　シンポジウム
「ＮＰＯと企業・助成財団の協働を進めるのに何が必要か」
資料代　：２，０００円

ＮＰＯ支援財団税氏研究会（事務局：当財団）主催のシンポジウムが開催されます。
第２部に、パネラーとして損保ジャパン環境財団の山中千花さんが、コーディネーターに当財団前専務理事の堀内生太郎氏が登壇されます。
関心のある方は、当財団または環境財団へお問い合わせください。

「安田火災記念財団賞」第1回審査会の開催

９月２１日（土曜日）学士会館において、平成１４年度第１回「損保ジャパン記念財団賞」審査会を開催いたしました。

本年度は、著書部門に１６件、論文部門に９件の推薦を受けており、翌年１月の最終審査会までの全３回で審査を行い、著書部門で１件（原則）論文部門で３件以内（原則）の授賞作品を決定します。

＊＊＊損保ジャパン記念財団賞とは＊＊＊

平成１１年度に新設した我が国唯一の社会福祉に関する優れた学術文献を表彰する制度。目的は、“社会福祉分野の研究振興”により“わが国の社会福祉の発展に寄与する”ために社会福祉分野を研究する若手・中堅の人材を育成することにあります。本賞は、我が国の２大福祉学会である「日本社会福祉学会」及び「日本地域福祉学会」からの「後援」を受けた賞として関係者の間で注目を浴びています。

寄付金の御礼

● 次の方から寄付をいただきありがとうございました。心から厚くお礼申し上げます。
（平成１４年６月２１日～９月２５日まで）
安田火災獅子の会(44 年同期会)様